

【報 告】

別府大学大学院文学研究科・食物栄養科学研究科主催講演会 およびシンポジウム開催報告

昨年度、大学創立70周年記念講演会・シンポジウムとして「災害の過去・現在・未来―天災と疫病と」というテーマでコロナ感染に関する講演会・シンポジウムを開催したが、コロナ禍は今年度も引き続き世界を席卷しており、未だに収束の気配すら見えない。そこで2021年10月16日（土）に、37号館4階メディアホールにおいてコロナ禍に関する再度の講演会・シンポジウムを開催した。

コロナ禍において昨今大きな問題となっていることは、Facebook、Twitter、InstagramなどのいわゆるSNSにおける不正確な情報や明らかなデマの拡散であるという認識の中で、メディアがどのようにコロナ禍を報道してきたかという新たな視点からコロナ禍を考えることとした。概要は以下の通りである。

○テーマ「コロナ禍の世界・コロナ禍後の世界」

基調講演：「コロナ禍の安全・安心を支えるNHKの役割」

高橋 善行 氏（日本放送協会 大分放送局長）

シンポジウム：

司会：針谷 武志 教授（歴史学専攻）

パネリストの報告

「日本近代文学に描かれた病」高木 伸幸 教授（日本語・日本文学専攻）

「疫病と人神信仰―源為朝、加藤清正、増田敬太郎を中心に―」

福西 大輔 准教授（史学・文化財学科）

「コロナ禍でのメンタルヘルス支援」矢島 潤平 教授（臨床心理学専攻）

「食と健康についての知識」大坪 素秋 教授（食物栄養学専攻）

飯坂晃治准教授の進行の下、針谷武志文学研究科長の開会の辞に始まり、飯沼賢司学長が開催の意義等について述べた。その後講演者である高橋善行氏の紹介及び講演が行われた。

休憩を挟んで行われた針谷武志文学研究科長の司会によるシンポジウムにおいては、4名の本学教員がそれぞれ報告を行い、引き続き高橋氏とともに活発な意見交換が行われた。

その後、樋園和仁食物栄養科学研究科長による閉会の辞があり、講演会・シンポジウムが終了した。

コロナ禍のため入念な感染防止対策を行った上で、一般の方々の来場も可能な開催となり、本学学長をはじめ、来場者は講師の高橋善行氏のご講演及びその後のシンポジウムを熱心に聴講した。

このように、本学大学院文学研究科・同大学院食物栄養科学研究科の両専攻に所属する専任教員による知の集合として、統一したテーマのもとにシンポジウムを開催できたことは大変有意義であったと思われる。来年度も本学大学院主催の講演会・シンポジウムを予定している。